

## 「回復期病棟入院患者における予後の調査」研究についての院内掲示

### 【患者の皆様へ協力をお願い】

当院では以下の臨床研究を行っております。当院が保有する患者様の診療情報を研究で使用するために連絡させていただきます。本研究への協力を望まれない患者様や研究に関するお問い合わせなどがある際には、下記の問い合わせ先へご連絡をお願いいたします。

### 【研究課題名】

回復期病棟入院の患者における、主要アウトカムの予測モデルの開発と妥当性検証、関連因子の検討—前向きコホート研究—

### 【研究目的と意義】

回復期病棟リハビリでは日常生活の自立、歩行の獲得、実用的な上肢の運動獲得、嚥下能力を改善して食事を再開するなど、主要な目標が複数あります。それらの改善に向けて様々な検査を行い、その結果を元に治療内容を決定します。しかし、入院時の複数の検査結果データから、どの要素が正確な予後の予測に影響するのかは限定的にしかわかっていません。例えば歩行能力の予後は入院時のバランスや膝を伸ばす筋力の程度が影響しますが、十分に検証された実用的な予測モデルにはなっていません。正確な予測モデルを作成することで、目標達成に向けたより集中的なリハビリ内容の決定に役立ちます。

### 【研究の方法】

実施期間：2023年4月1日～2028年3月31日

対象：上記期間に3階と4階に入院してリハビリテーションを受けた18歳以上の方々

利用する情報：年齢、性別、身長、体重、BMI、骨格筋量、サルコペニア有無、栄養状態、入院日数、リハビリ総実施時間、発症前情報(脳卒中歴、身辺動作能力(mRS)、歩行状況、利き手、住環境、既往歴)、現病歴(脳卒中部位と損傷範囲と急性期治療有無、受傷機転と部位と術式)、視機能、退院時運転再開見込み、退院時復職見込み、日常生活自立度(FIM)、起居移動動作能力(自立度・10m歩行能力・6分間歩行能力)、動作の自立日と補装具の使用状況、バランス能力(BBS)、運動麻痺(Brs・SIAS・FMA)、上肢機能と利用状況(握力・FMA・ARAT・MAL・STEF)、記憶や注意機能などの認知機能(MMSE・TMT・ROCF・BIT・CBS・FAB・RCPM・CBA)、失語症(SLTA・BDAE・情報伝達度)、構音機能(ディサースリアタイプ・発話明瞭度・発話自然度・MPT/a:/)、嚥下機能(FILS・FOIS・舌圧・気管切開や経鼻胃管の有無とカニューレ・管の抜去日)、覚醒度(GCS)、疼痛、脳画像・レントゲン・エコー

### 【個人情報の取り扱いについて】

本研究は診療情報を用いる研究であるため「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の「インフォームド・コンセントを受けない場合において当該研究の実施について公開すべき事項」に従い、公開と研究対象患者に参加拒否の機会を与えるため、オプトアウトについての資料を提示し、参加拒否の申込があった患者様のデータは使用しません。

### 【問い合わせ先】

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

研究責任者：加世多哲平(医師)、福元裕人(理学療法士)、長澤圭佑(作業療法士)、亀谷浩史(言語聴覚士)

電話：076-438-2233 (リハビリテーション療法部成人療法課まで)